

令和2年度 京都府立農芸高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン） 実施段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 目指す教育 質実剛健の校訓のもと、高等学校における普通教育と農業に関する専門教育を施すことにより、社会人基礎力を養い、農業教育で培った知識・技術を活かし、生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を備えた、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>2 目指す学校 京都府農業教育の唯一の専門高校として、地域や関係諸機関等に信頼される学校づくりを基本とし、 (1) 社会から求められる人材を育成する学校 (2) 農業や農業に関連する分野で活躍する職業人を育成する学校 (3) 農業専門高校にふさわしい高度な専門性を追求する学校を目指す。</p> <p>3 目指す生徒 (1) 夢と希望を持ち、未来を展望する力をもつ生徒 「展望する力」 (2) 生命を慈しみ、他を思いやり、つながる力をもつ生徒 「つながる力」 (3) 質実剛健の気風を培い、挑戦し続ける力をもつ生徒 「挑戦する力」</p>	<p>1 成果 (1) 生徒の実態に応じた組織的な生活指導と寮教育の推進、主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践と基礎・基本の定着を軸とする学力向上とともに、積極的に計画的なキャリア教育と進路指導により希望進路の実現に取り組んだ。 (2) GLOBAL G.A.P. 継続認証や農芸祭をはじめ、農業専門高校としての特色ある活動を推進し、農業クラブ活動、技能五輪全国大会など各種競技会や資格取得など生徒の成功体験の蓄積を推進した。 (3) 新しい高等学校学習指導要領の趣旨と農業の6次産業化を踏まえ、新しい時代に対応した教育の推進と専門教育の一層の充実を図るため、令和2年度にスタートする3学科8コース体制を整理し、3年間の学習計画を練り上げた。 (4) 教育活動情報を積極的に広報するとともに、継続して保護者対象の学校アンケートを実施し、教育ニーズの受信と改善に努め、教育活動に対する地域や保護者の理解促進に取り組んだ。</p> <p>2 課題 (1) 生徒の自主的な学習意欲の喚起と学習習慣の定着によって、より高い目標を目指し、希望進路実現に努力させ、生徒を確実に社会的自立に向かわせること。 (2) 地元地域との連携や活性化に係わる活動によって、教育機関としての信頼度を高め、募集定員を充足する志願者を確保すること。 (3) 自主的な課外活動を推奨し、部活動、農業クラブ専門部の活性化により、心身共に健康で規律ある、人権意識の高い生徒集団の育成を目指す取組をさらに進めること。 (4) 大学・企業・関係機関と連携した専門性の高い研究や府農林水産部、地元行政機関の事業を活用した農業の担い手育成に関わる活動を継続すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「新しい農芸の未来への挑戦・目指せ Next Stage!!」</p> <p>2 学校経営の重点事項 (1) 主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上 ①主体的・対話的で深い学びを目指し、授業・実習における指導方法の工夫・改善と基礎的、基本的な事項の確実な定着を目指す。 ②教科横断的な教科活動に取り組むことにより、学科のねらいやコースの目指す生徒像の実現に寄与するとともに、農業専門教育の活性化に資する。 ③生徒による授業アンケート実施方法を見直すとともに、観点別評価を踏まえた適切な評価基準を整備し、評価・評定を行う。 (2) 農業専門高校としての特色ある活動の充実と生徒の自己有用感の高揚 ①新学科・コースのねらい・育てたい生徒像の趣旨を踏まえ、ACCESS の適切な指導を推進する。 ②改編の趣旨である「6次産業化」、「スマート農業」、「グローバル化」の具現化を視野に入れ、各コース農業専門教育の推進に取り組む。 ③農業クラブ活動における「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 (3) 積極的なキャリア教育の実践による生徒の個性・能力に応じた進路実績の構築 ①3年間を見通した進路学習、インターンシップ等により、適正な勤労観と職業観を計画的に育成する。 ②地域、企業、大学等と連携し、外部人材を積極的に活用するなど将来の職業人としての高い倫理観と社会人基礎力を培う。 (4) 人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着 ①保護者の理解と関係機関との連携を軸に、全ての教育活動を通して生徒密着型・問題解決型の生活指導を組織的に推進する。 ②学校生活、寮生活をとおして適切な行動規範を身につけさせ、自立心、協調性、責任感と道徳的実践力を育むなど全人的な教育活動を推進する。 (5) あらゆる教育活動をとおした人権教育の推進と安心・安全の確保 ①自他の人権と生命を大切にし、良識ある公民として共生社会を主体的に生きる力を醸成する。 ②特別な支援を要する生徒の教育ニーズを適切に把握し、関係機関と適切に連携し、組織的な合理的配慮による特別支援教育を推進する。 ③全ての教育活動において事故等の未然防止とともに、安心・安全の確保に努める。</p> <p>(6) 信頼される開かれた学校づくりの推進 ①「農芸祭」をはじめ日頃の学習成果発表の場を数多く設定し、生徒の姿を発信することにより、教育成果を広く府民に公開し、教育機関としての信頼を得る。 ②新聞広報、南丹市 CATV などによる教育活動情報を積極的に発信し、定員を充足する志願者を確保するとともに、教育ニーズの受信にも努める。</p>

分掌/教科名	評価要領 (業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題
管理職	組織運営	主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力向上に取り組む。	生徒による授業アンケートを授業改善に活かすとともに、観点別評価を踏まえた適切な評価規準による評価・評定を行う。教科横断的な教科活動に取り組むことで、専門教育の活性化に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを精選し、結果をまとめ、事後の授業改善に活かすよう取り組んだ。今後は、観点別評価の実践とともに、教科横断的な教科活動が活発化するよう情報交流の場を設定するなどして、生徒の学力向上に取り組むことが必要である。 ・学科改編初年度、コロナ禍ではあったが各コース工夫して連携活動に取り組み、改編の趣旨に添った運営を行えている。今後は、生徒の専門性をより高め、ACCESSの理念が定着するよう学科・コースの指導を推進し、全校体制の取組とすることが必要である。 ・授業、実習、部活動、寮生活等のあらゆる教育活動を通して望ましいキャリア教育を実践することで、希望進路の実現を果たした。人権意識をさらに高揚させることが課題である。
		農業専門高校としての特色ある活動の充実と、学科改編の趣旨の具現化に向けたコース学習の推進に取り組むことで、生徒の自己有用感の高揚を図る。	地域・企業・大学との連携活動や農業クラブ活動等に積極的に取り組むことで、生徒の専門性を高めるとともに、ACCESSの理念に基づいた学科・コースの指導を推進することで、本校への帰属意識と自己有用感を涵養する。	B B	
		組織的・計画的なキャリア教育の実践により、職業人としての高い倫理観を育成し、希望進路を実現する。	あらゆる教育活動において人権意識の高揚を図り、健全な勤労観の体験的な育成に努め、効果的な進路指導を実践する。	B	
事務部	学習環境	奨学金をはじめとする援護制度の周知徹底	その都度速やかに教室掲示プリントを配布し、学校預かり金等延滞気味の家庭については担任と密に連携し早期に解決を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金や各種援護制度の周知については適切な時期に滞りなくできた。問い合わせについても丁寧に対応できたが、よりきめ細やかな対応が必要となる場面もあった。 ・学校運営費については、全体を考慮し執行できた。コロナ関係予算の執行については若干遅れが生じた。
		学校予算の効率的な執行	学校運営費、実験実習費の枠にとらわれず学校運営に支障のないよう経費節減を行う。	B	
教務部	学習指導	安心できる授業環境を整備する。	「授業開始の五箇条」の徹底をはじめ、規律ある授業環境を整えることや、誰もが学びやすい授業を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の導入や生徒情報の共有方法改善に取り組めたものの、生徒に還元させるためには今後教職員の利活用促進に取り組む必要がある。 ・基礎学力定着にむけた授業改善や、授業規律の向上、学習に向かう姿勢づくりなどは各分掌・教科と連携を促進し組織的な指導を続ける。 ・新学習指導要領の趣旨に沿った教育内容や評価のあり方について検討を進める必要がある。
		学科改編及び新学習指導要領に向けた授業改善を検討する。	主体的・対話的で深い学びを目指す教科横断的な教育活動(考える授業)の実践を目指すとともに、基礎学力の定着を図る授業展開を実践する。	B B	
		円滑な教育活動ができる環境を整備する。	情報機器や校務システム等の効果的な活用や図書館利用の活性化、学校行事の適切な計画調整を行う。	B	
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全教職員によるあらゆる教育活動を通じた生活指導・人権教育を徹底するとともに、マナーを向上させることで規範意識と社会人基礎力を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や家庭の実態を捉え、子どもや保護者に寄り添った生活指導の推進に努めるとともに人権旬間や人権週間などを活用して、人権意識を浸透させるよう働きかけができた。 ・盗難事象が数件発生した。貴重品の管理についての声かけを繰り返し、徹底しているが、更なる意識付けが必要である。 ・問題行動のなかでも喫煙行為が多く発生した。防止対策として、全校生徒集会で問題行動(喫煙、飲酒等)未然防止の講話や保健部主催で1年生を対象とした喫煙防止教室を行っているが一部の生徒に成果が得られていない現状があり、課題である。
		いじめ等の問題行動の未然防止	生徒の実態把握に努め、生徒密着型・問題解決型の生活指導により問題行動の未然防止に努める。	C	
		生徒会活動・部活動の活性化	加入率、継続性を高め、達成感・充実感を得られる部活動・生徒会活動を展開する。	C	

					<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を年間3回実施し、今年度のいじめ対策の取組内容やアンケート実施後の検証を行った。全校生徒対象のいじめアンケートを2回実施し、何らかの記入があった生徒に対しては生徒指導部を中心に面談を行い、追跡、面談を継続、家庭訪問等の対応をとっている。 ・SNS 関連に関わるトラブルが1件発生している。表面化されたトラブルは氷山の一角であることを認識し、情報モラル教育を強化すると同時に教職員研修を充実させ、生徒観察や情報収集、教職員間の連携に努めることが必要である。本年度は南丹警察署スクールサポーターに支援を要請して、各連携機関と協議した。また、1年生を対象にネット安心アドバイザーを活用した講演会を行った。 ・自転車乗車中の事故が2件発生した。交通安全教室の実施等により交通安全に対する意識を徹底する必要がある。 ・新型コロナウイルスの影響下、生徒会行事を縮小せざるを得なかったが、開催内容を変更して学年別の球技大会やクリーンキャンペーンなど新たな活動ができた。 ・部活動加入率については、加入率は昨年度より上昇傾向にあるが、継続性や体制整備の拡充が求められる。 	
進路指導部	進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップの活性化や卒業生講話の実施	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により、卒業生講話が実施できなかった。 ・臨時休業により、予定していた時期には実施できなかったが、各教科担当との連携で、縮小版ながら実施できた。 ・日程的に詰め込み気味になったが、学年団との連携でほぼ予定通り実施できた。
		学力の向上	進学セミナー、学習合宿、基礎学力補習の更なる充実	B		
		社会人基礎力の育成	日常の指導に加え、外部講師を活用して、マナーや職業観を身に付けさせる。また、手帳を活用して、社会人基礎力のひとつである自己管理能力を涵養する。	B		
保健部	健康・安全教育	自分の身体に関心を持ち、健康を意識する生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や検診結果の通知および治療勧告により、治療率の向上に努める。 ・3年間を見通した保健学習の内容と時期を検討し、取組の充実を図り実施する。 ・自己の健康管理を高めるため、保健だよりなどの啓発活動をする。 ・誰もが安心して利用でき、ケジメのある保健室経営を目指すとともに、来室者について担任・関係諸機関とこまめな情報共有、早期対応に努める。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルス感染症」に対して、新しく正しい知見に基づいた感染症対策の発信が続けられた。 ・健康診断や検診結果の通知および治療勧告をすることができた。 ・課題のある生徒に対して、早期に対応できるように臨時の特別支援教育会議を開催したり、スクールカウンセラーや専門機関と早期の連携がはかれたりした。 ・各学年の特別支援教育コーディネーター連絡会議の定期的な開催ができなかった。
	特別支援教育	特別支援教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての理解と認識を深め、生徒の的確な把握に努めるとともに、各生徒に応じた個別の指導計画の作成を呼び掛ける。 ・課題のある生徒に対して、早期に対応できるように、特別支援教育会議と連動しながら、定期的に特別支援教育コーディネーター連絡会議を開催する。 	B		

			・課題のある生徒の教育的ニーズに応じた教育の充実に努めるため、スクールカウンセラーや専門機関との連携を図る。		
	校内美化	よりよい学習環境の維持・向上させる。	・清掃活動の活性化やごみの分別回収など、校内美化に対する意識向上させるための啓発・清掃内容の改善に努める。 ・安心・安全な環境を維持するために、環境衛生調査および校内施設の定期的な安全点検を行う。	B	・日々の清掃活動やごみの分別回収に加えて、一斉美化作業を実施し、校内美化に対する啓発・清掃内容の改善に努めた。 ・安心・安全な環境を維持するための環境衛生調査および校内施設の定期的な点検を実施できた。
	生徒会活動	生徒保健委員会活動を活性化させる。	・全校生徒の健康安全への意識向上、安心安全な学習環境への維持向上に結び付けながら、保健委員会活動を実施する。	A	・様々な場面で、生徒保健委員会の取組を実施し、活動を活性化させた。
総務部	生徒募集	学科改編を府下中3生に周知するとともに、本校の教育システムやコースの特徴を理解した目的意識のある志願者を獲得する。	オープンスクールの実施回数を維持しつつ、全体的な実施時期を早め、内容を変更するとともに、これに合わせた中学校訪問を実施する。また、リニューアルしたホームページの充実や SNS の活用推進を図るとともに、学校パンフレットを府下中3生に配付し、改編した学科の魅力を含めて、本校の教育実践について広く発信する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関わり、当初計画からは時期を変更したが、オープンスクールと中学校訪問は実施できた。特に、第2回のオープンスクールは参加人数調整を目的に2週にわたって実施し、さらに、農芸祭の代替えとした見学会も実施し、中学生が参加しやすい環境を提供するとともに、HR 教室でのライブ配信による少人数受講や、健康チェックなどの実施で安心感を提供することもできた。 一方で、オープンスクールや専門学科の取り組みなど、HP、SNS を活用した情報発信は昨年度比較では半数程度に減少し、課題が残った。 ・PTA では、計画段階から大きく変更することとなったが、本部役員や専門部会との細かな連携や調整、リモートの活用などによって、総会の書面審議、街頭指導、校内研修会、麦穂発行、口丹ブロック研修会参加など、実施可能な事業については実施できた。総会の日程変更に伴う年間計画の検証については課題として残った。
	PTA	生徒の教育活動充実のため、PTA 会員と連携して取り組む。	PTA 会則変更に伴う総会の日程の変更と、これによる諸会議、事業開催について日程調整し、従前の内容を担保できるか検証するとともに、次年度以降の適切な計画を立案する。	B	
農場部	農場管理・運営	学科改編を円滑に移行させる適切な農場運営	学科・事務部と連携し、必要な経費の確保に努め、より効果的な実験・実習を展開する。	B	1 成果 (1) 新学科1期生が入学し、1年次後半からのコース授業が予定どおり展開できた。 (2) 草花ガラス温室2棟、ビニルハウス、農業機械等を更新し、施設・設備の充実を図った。 (3) コロナ禍で移動が制限される中、GAPweb 会議、台湾曾文との Web 交流が実施できた。 (4) 農芸祭の代替行事として、保護者向け学校公開「農芸マルシェ」を実施し、好評を得た。 (5) 府立高校特色化事業、京の担い手育成推進事業、農と里を支える担い手育成事業等、多数の事業を活用した。
			「6次産業化」、「スマート農業」、「グローバル化」の視点で、学科改編を円滑に実行する。	B	
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会において、府連大会、全国大会での入賞を目指した指導を行う。	C B	
			資格取得・各種コンテスト・地域連携事業など、クラブ員が活躍できる場を数多く提供する。	C	2 課題 (1) コロナ禍等で、農場収入が激減し、次年度の実験実習費の運用について協議する必要がある。

			日頃の学習成果発表の場として、農芸祭、学習成果発表会を成功させる。	B	(2) 様々な事業を活用し、施設・設備の充実を図っているが、造園・農業土木分野の施設・設備の更新が極めて不十分である。 (3) 各種発表会・競技会、地域イベント、資格試験が多数中止となり、生徒活躍の場の確保が十分にできなかった。 (4) Web 交流やリモート発表等に使用する ICT 機器が誰でも使用できるよう、研修の必要性がある。 (5) 学科改編に伴い、新たに開講する科目の効果的な指導計画を検討する必要がある。	
	特色化事業	専門高校としての特色ある活動の推進	府立高校特色化事業や京都府関係機関各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。	A		
寮務部	寮教育 寮運営	寮生活と学習を密着させ、自己有用感の高揚を図るとともに、自己実現に向けて努力することのできる生徒を育成する。	学習時間を有効活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	C	1 成果 (1) 重点目標については、一定の成果があったと考える。特に、基本的な生活習慣を確立させることができた。 (2) 定期的に寮面談をすることで、生徒の不安を取り除き、スピード感をもって個に応じた対応をすることができた。寮生集会では、集団指導により集団意識の涵養を図った。 (3) 各教科担当からの学習課題により、学習習慣を定着することができた。 2 課題 (1) 自らの進路目標を意識し、主体的に学習する姿勢の醸成には大きな課題が残っている。新型コロナ対応で、寮日課を変更したため、舎監の協力と指導体制の再構築を課題内容の検討が必要である。 (2) 自ら挨拶することを定着させられなかった。寮だけの指導ではなく、通学生も含めて学校全体での指導の徹底が必要である。	
			自発的な挨拶の定着と基本的な生活習慣の確立を図り、社会性を身に付けさせ自律を促す。また、定期的に寮生集会を実施し、寮生同士の結束と農芸高校生としての帰属意識を高める。	B		B
		厳しくも、温かく気持ちのある指導を実践し、きめ細やかな生活指導と規範意識の向上を図る。	生徒の悩みや困りに耳を傾け個々の生徒の実態を把握し、人間としての在り方や生き方を考えさせ、社会人基礎力を養う。	B		
第1学年部	指導方針	各分掌間連携を密に行い、基本的な生活習慣及び社会人基礎力の定着を図る。	HR 運営・寮・各授業において、統一感のある集団指導を行うことで基本的な社会性を身に付けさせ、生徒の自己有用感を高める。	B	1 成果 (1) ACCESS 導入年度ということもあり、各コースや分掌との連携については緊密に行うことができた。コース選択についても、三者面談などを通して主体的・俯瞰的に選択させることができた。 (2) 生徒事象について、保護者へ電話連絡をその都度行い、学校・家庭両面からサポートを行うことで、有効性のある指導を行えたと考える。 (3) LHR や各種講演会などにおいて、手帳・ポートフォリオノートを活用して感想やコメントを記録するなど、年間を通して生徒の自己理解を進めることができた。 2 課題 (1) 基本的な生活習慣の定着については、4・5月が家庭学習期間だったこともあり、満足できるものとはなっていない。2年次に引き継ぐべき課題であると考え。 (2) 暴力・盗難・SNSトラブル・その他集団での不良行為が発生し、事前指導を活かし切ることができなかった。今後、事後指導も含めたトラブル未然防止のための取り組みを一層進める必要性を感じた。 (3) コロナ禍の影響もあり、種々の行事が中止となり、生徒にとっても自己肯定感や達成感を感じることもできる機会に恵まれなかった。今後の情勢にもよるが、制約がある中でも生徒が生き生きと学ぶことのできる環境の創出が課題であると考え。	
		生徒指導案件の未然防止と、質の高い学習空間の提供を図る。	HR における訓話や人権学習、各分掌による全人教育、こまめな情報共有による初動対応により、安心して学べる教室環境を整備する。	C		B
		各教科・コース・学年が連携し、一貫性のある自己管理能力を身に付けさせる。	各種書類提出習慣の確立のため、各分掌と連携し、スケジュール手帳や書類ケースなどの自己管理ツール活用指導を通年で行う。	B		

第2学年部	指導方針	所属コースの分野に対する肯定感を高め、自己有用感の高揚を目指す。	専門分野の学習や学校行事において、自発的に取り組むとともに、専門分野を学ぶことへの肯定感を高める指導を行う。	B	所属コースで専門性を高めようと懸命に取り組んでいる生徒がいる一方で、後ろ向きな言動がある生徒もおり、まだまだ自己有用感の向上を図ることができると感じる。	
		協力・協働の集団を目指す指導の実践。	修学旅行をはじめとする学校行事において一人一人が役割を持ち、活躍できるよう指導する。	C		予定していた修学旅行が中止となり、その他にも学年やクラスなどの集団で協力する機会がとれなかった。
		自己管理能力の向上を目指す指導の実践。	基本的な生活習慣の確立と挨拶・服装などのマナー指導の徹底、及びスマートフォンとの付き合い方に関する指導を重点的に行う。また、手帳を有効的に活用し、自己の管理、時間の使い方を身に付けられるよう指導する。	B		基本的な生活習慣や学校生活においても意識の高い生徒と低い生徒の差がはっきりしている。引き続き多くの先生方からご指導を賜りたいところではあるが、何より生徒たち自身で声を掛け合い、クラスの雰囲気をつくっていけるようはたらきかけたい。
第3学年部	指導方針	社会に求められる人物の育成を目指す。	挨拶の励行や手帳による自己管理を促すことで、自らを律し他者から信頼され、愛されるに足る人物を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における挨拶は当たり前のようにできるようになった。一方で生徒自身での自己管理という点では、手帳の使用が徹底できなかったなど課題が残る結果となった。 進路指導部や各コースの先生方と密に連携を取ることができたため、比較的満足度の高い進路実現を成し遂げることができた。また、Classiの活用や電話連絡等、保護者との連絡もこまめに行うことができた。 生徒指導部や各コースの先生方と協力し、問題には迅速に対応することができた。課題であった人権意識の啓発であるが、他者に対する言動に注意したり、思いやりの気持ちを持ったりといった点で多くの問題を抱えたままとなってしまった。 	
		保護者や進路指導部との連携を密に行うなど、生徒の満足度が高い進路指導を行う。	三者面談や家庭連絡など保護者と密に情報交換を行い、進路指導部と共有を図る。生徒自身には志望理由等をしっかりと考えさせる機会を多く作ることで、納得し満足していく進路実現を行わせる。	B B		
		他者を敬い、人権意識や思いやりの精神を養う。	生徒指導部や様々な教科・分掌と連携し、他者の立場や状況を思いやる想像力や知識を育むことで、いじめを未然に防止する。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○本校の教育について (1) いろいろな事に配慮しながらも学校の成長戦略を考えている。(2) コロナによる休校期間中、農場では先生方が一生懸命管理作業を行っていた。また、普通教科の先生方も作業を通してよい経験をされ、今後の授業に活かせるのではないかと。(3) とても大事な時期に入寮できなかった1年生が、今後の寮生活においてどれくらい挽回できるか心配である。(4) 府立大学との連携協定が締結された。今後、連携活動が活発に進むことを期待する。(5) 農業は廃ってはいけない産業である。中学生等に農業の大事さを分かってもらえるよう、また、魅力が伝わるよう中学校は話しをしてほしい。(6) 寮の拡充や交通の便がよくなれば、生徒が来やすくなるのだが。</p> <p>○授業参観について (1) 生徒は集中して熱心に先生の話聞いていた。先生の板書は丁寧できれいであった。(2) 対話型の授業形態で生徒の意欲が向上している。(3) 昨年度末に指摘したバラバラの座席配置が改善され、机列が整っていた。(4) コロナの影響もあり1年生の様子を心配していたが、穏やかで真剣に落ち着いて授業に臨んでいた。(5) 教室内の人数はあれで(クラス授業)多くないのか気になった。また、マスクを非着用の生徒もおり心配である。</p> <p>○農業クラブ・生徒会本部役員との座談会について(生徒10名参加) (1) 生徒会の生徒はしっかりした頼もしい生徒ばかりで、目的意識がある。今後も自身の目標達成に向けて頑張ってもらいたい。(2) 生徒から直接意見を聞くことができ、たいへん参考になった。次回は少人数グループでの懇談をお願いする。</p> <p>○令和2年度学校評価アンケート、学校経営計画について (1) 学校経営計画の自己評価がいつもは遠慮がちにつけられていたが、今回は自己評価が高くなっており、よい傾向である。(2) アンケートの質問項目はコロナを踏まえたものにした方が良かったのではないかと。</p> <p>○その他 (1) 学校案内看板を駅や主要道路に設置することで、興味をもつ生徒が増えるのではないかと。(2) 農芸祭の中止判断(代替開催：農芸マルシェ)はこの状況ではやむを得ないと考える。(3) 農場の生産物販売において、ネット販売や道の駅での販売等を検討してもよいのではないかと。</p>
-------------------------	--

次年度に向けた改善の方向性

管理職

(1)新学習指導要領への円滑な移行や観点別評価の実践に向けた取組を推進することで、授業改善を図るとともに、生徒の学力向上に努める。(2)感染症対策を図りつつ、関連大学や企業・地域との連携を促進し、学科改編の趣旨であるACCESSの理念を定着させる。(3)あらゆる教育活動を通じたキャリア教育をより実践し、希望進路の実現を図るとともに、人権意識を高揚させる。(4)教職員の働き方改革に伴い、業務改善を図り、教職員の負担軽減を一層推進する。

事務部

(1)奨学金や各種援護制度について、内容の理解を深めてもらうためよりきめ細やかな対応を心がける。(2)学校運営費について、教育活動を第一に考えた予算執行に努める。

教務部

(1)基礎学力の定着に向けた学びに向かう姿勢づくりに取り組む。①考査期間だけでなく、農芸高校での「学び」全体に対して生徒へアプローチする。②進路指導部と連携し、基礎学力向上に向けた指導を組織的、計画的に指導する。(2)新学習指導要領に則した指導方法と評価のあり方について検証する。①ACCESSのあり方やICT機器を活用した授業などを評価とともに検証する。②観点別評価の研修や実際の試行・検証を行う。(3)学校行事を精選し、効果的でスリムな行事計画を調整する。

生徒指導部

(1)生徒の規範意識の高揚とマナー指導の徹底(2)生徒の特性を理解した特別指導の在り方と効果的な指導方法の検討(3)交通安全教室の継続実施と交通安全指導(自転車)の徹底(4)部活動の活性化と、生徒が主体的に活動する生徒会体制の整備(5)全教職員が一体となった人権教育を含めた指導体制の確立と、組織的な生徒指導体制の構築

進路指導部

(1)新しい入試制度ができたときに対応できる生徒の育成が必要である。(2)進路決定後の生徒に対する指導体制を確立することが必要である。(3)生徒個々の進路指導方針を早期に決定するためにも、進路検討会を実施する。(4)進路部内の業務の汎用化を更に進める。(5)手帳使用に関するガイダンスを実施し、啓発に努める。

保健部

(1)自分の身体に関心を持ち、健康を意識させるため、個別の声かけを強化する。(2)特別支援教育をさらに充実させるため、各学年の特別支援教育コーディネーター連絡会議を授業時間に組み入れて実施する。(3)環境衛生調査結果、校内施設の定期的な安全点検結果を保健たよりで広報する。

総務部

(1)パンフレット配付とポスターの早期作成配布や、オープンスクール、中学校訪問の日程、内容の変更とこれに伴う効果、課題の整理(2)HP活用に関する研究や、校内研修会の開催(3)PTA役員会での事業運営の微調整と日程変更に伴う課題の整理

農場部

(1)実験実習費の確保、施設・設備の充実、スマート化を引き続き行う。(2)新たに開設する科目を効果的に展開し、スムーズに新学科に移行する。(3)コロナ禍ではあるが、学習成果の発表の場や生徒活躍の場を数多く設定する。

寮務部

(1)生徒の健康や衛生に関わる施設設備の老朽化対策及び新設の検討・実施(特に給湯用ボイラー及び舎室床の修繕が急務)(2)災害対策用品の常備と複数日の災害対策食の準備(寮生会費で1食分を確保しているのみ、使い捨ての食器などの備蓄が必要)(3)管理職と連携し舎監業務後の休息時間の確保(4)寮生集会等で食育を実施し、食品ロスを減らす取り組みを実施(5)新しい寮日課を見直し、学習時間を確保

第1学年部

(1)生徒指導事象の原因模索、及び未然防止と事後指導の迅速化(2)本年度行えなかった、学年会や教科担当者会議を適宜実施するなど、担任間、もしくはコース・教科担当者と学年部との情報共有の場を積極的に作りたいと考える。(3)進路意識の芽生えが学習意欲の向上につながり、平常の授業態度などにも反映されるため、成績や授業での取り組み姿勢の重要性を再確認し、生徒の意識を高揚させていきたい。

第2学年部

(1)生徒が主体となって、HR運営ができるようさらに指導を行う。(2)スマートフォンの利用について、改めてルールを徹底し、そのようなツールに依存しない生活を送れるよう生徒達に考えさせたい。(3)進路指導部と連携を図り、早期に進路に向けた取り組みを進めていく。(4)履歴書で自己PRができるよう、資格取得やボランティアに積極的に参加を促したい。

第3学年部

(1)保護者との密な連絡は生徒指導において非常に有効であった。(2)生徒が他者を尊重し、落ち着いて学校生活を送れるような学習環境の構築を行いたい。(3)コロナ禍を念頭において、年間を通じた計画的なLHR運営が必要に感じた。

人権教育

(1)引き続き、学科・コースとの連携も含めたあらゆる教育活動を通じた人権教育の推進(2)人権侵害行為の未然防止の啓発と発生時の適切な対応(3)教職員の人権意識の高揚のための効果的な研修会の実施(4)府高人研や地域との連携による研修内容を本校の人権教育へ活用する